

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和8年4月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770107411		
法人名	株式会社いーくおる		
事業所名	グループホーム和の家		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	堺市北区東上野芝町2丁287		
自己評価作成日	令和8年2月25日	評価結果市町村受理日	令和8年4月24日

【事業所基本情報】

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanji=true&JigyosyoCd=2770107411-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和8年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○一人一人の自立を促し毎日少しでも楽しく過ごしていただけるよう支援しています。
○施設と地域の方々との交流を深める為、施設では行事として地域の方に来て頂くように1回なごみ喫茶を開催させていただいています。
○自治会の行事やボランティア活動にも積極的に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

グループホーム和の家は、いたすけ公園(古墳)より、徒歩5分圏内の住宅街に位置している。「ひとりひとりの意志を尊重し、よく理解して安心と豊かな暮らしを地域と共に支えます。」を運営理念とし、地域との共生や利用者との関りを重視して、職員と共に日々のケアに取り組んでいる。事業所の敷地内の畑を近隣住民に開放し、一緒に野菜作りを行い、地域との交流を図っている。畑で収穫した季節の野菜を調理したり、毎月1回は利用者の要望もふまえた行事食を提供している。その他、テイクアウトや仕出し弁当等、食事に変化が持てるように工夫している。毎月事業所が開催する「なごみ喫茶」では、手作りのおやつや飲み物を提供している。近隣住民や家族が10名程度参加し、雑談等も交え利用者との交流を図っている。医療従事者とは24時間365日連携を図ることができる。看取りの際は、簡易ベッドを貸し出すことが可能であり、家族の泊り希望にも備えている。開設より数名の見取りを行っており、本年度も1名を看取った実績がある。3日分の食料品と水、防寒シートやガスボンベ・ガスコンロを備蓄しており、日頃から湯船には水を貯める等、災害に備えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を基にサービスの提供を実践しています。	「ひとりひとりの意志を尊重し、よく理解して安心と豊かな暮らしを地域と共に支えます。」を運営理念とし、玄関と各ユニット事務所に掲示して、いつでも確認できるようにしている。管理者は地域との共生を重視し、職員と共に日々のケアに取り組んでいる。ただし、理念そのものは入職時の研修でのみ説明するにとどまっている。	運営理念を玄関や事務所に掲示していることは評価できるものの、定期的に職員の理念への理解の周知に取り組むことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度の「なごみ喫茶」や敷地内畑にて近隣住民との交流を行う。	町内会に加入し、回覧板の受け渡しを利用者と一緒に行っている。また、月1回の「なごみ喫茶」では、毎回近隣住民10名程度が来所し、利用者との交流を図っている。敷地内の畑では地域の健老会の代表者が野菜を栽培し、日頃の水やりや収穫を利用者が手伝う等、地域住民とは良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の役員の協力のもと、毎月「なごみ新聞」を回覧版に配信しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様、地域の方、利用している薬局の薬剤師様、地域包括の方に参加していただき意見を参考にさせていただいています。	運営推進会議は奇数月に開催し、地域住民の代表者、地域包括支援センター職員、家族の代表者、薬剤師が出席している。主に活動報告や事故報告を行い、出席者からアドバイスを得ている。ADL低下の原因が外出が減ったことに因るのではとの意見から、外出機会を増やすなどの改善を行う等、意見や提案を日頃のケアに反映させている。ただし、職員には口頭で会議内容を伝えているだけで、議事録は作成していない。	会議内容を管理者と全職員が共有できるように、議事録の作成を期待したい。

5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	管理者が行っている。	市の担当者とは、利用者の入院手続きのやり方を相談するなどしている。堺市北区グループホーム連絡会には積極的に参加し、いろいろな情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する知識を学び身体拘束ゼロの取り組みを行っています。	身体拘束防止委員会を年4回開催している。また、身体拘束に関する研修は虐待防止研修と共に年に1回開催している。日頃のケアにおいては、ベッド柵を撤廃したり、管理者が身体拘束を疑う言動等があった場合に、その職員に直接指導している。職員同士で注意し合うこともある。施錠については、ユニット出入口は夜間帯や職員の見守り状況に応じて施錠している。建物玄関のドアは安全を優先させて常時施錠している。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員全員で常に注意しあい、虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が一括して行っており、十分に説明を行っています。		

10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見を聞き、家族様とは手紙や電話にて信頼関係を築くようにしています。	利用料請求時に、毎月「なごみ便り」を送付し、利用者の暮らしぶりや行事の予定を利用者の写真とともに報告しており、家族が管理者等に話しやすい環境を整えている。家族からは電話や来所の際に意見等を聴き取っている。利用者には日頃のケアを通じて聴き取っており、聴き取った内容は、朝礼時などで口頭で報告し、職員との情報の共有を図っている。大仙公園への散策等、家族からの意見を聴き取り運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	ミーティング等で常に意見を聞き、話し合いのもと反映している。	管理者は、日頃から職員との距離感を大切にしており、話しやすい関係づくりに努めている。そのため、管理者はミーティング時に限らず、日々のケアの中で職員からの提案があり、その内容に耳を傾けている。排泄支援のやり方や職員個々の公休に関する意見や提案等を聴き取り、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新を利用して行われている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実力の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意見を尊重している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	管理者は他事業所との交流を通じ、サービスの向上に努めている。		

Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	カンファレンスを行い信頼関係を構築している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様より情報を収集し、カンファレンスを行い信頼関係を構築している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の意見を確認し、対応するよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の意思を確認しながらできることは見守り、支え合うよう支援している。			
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の気持ちに寄り添い、意見交換を行い、支援させていただいています。			
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人に継続的に会えるよう本人様の希望に沿いながら支援している。	馴染みの人や場の関係は、入居時に家族や利用者本人から聴き取っている。これまで、家族からの要請で知人の来所を受け入れている。行きつけの場所などは原則として家族が連れて行っている。新たな馴染みの場等の情報があつた場合は、職員間で情報を共有している。	情報の共有手段が職員間の口頭による共有としていることが多い。今後、連絡ノート等を活用し、文字による記録とともに、職員の閲覧等による情報の共有にシフトさせる取り組みに期待したい。	

21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者様同士有効な関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対処された家族様より連絡をいただいた際、相談を受けたり情報を提供する等の対応を行っている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その都度本人様の意見を聞き本人様本意の支援を行っている。	各利用者の聴き取りを担当する職員を決め、その職員により希望や意向等の様々な情報を聴き取ることとしている。意思疎通が適わない利用者には表情や仕草で判断している。家族とは電話やLINEを通じて意向等を聴き取っている。連絡ノートに記入し職員間で情報を共有している。利用者からは「部屋にいるときは構わないでほしい」や「熱いブラックコーヒーをカフェオレに変えたい」等、聴き取った意向を実現させてきた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ケアプラン作成時、過去を振り返り現状と照らし合わせ役立てるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	連絡ノートの確認を行い一人一人の状態を共有している。		

26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様と連絡を取り、職員間でも意見、アイデアを出し合い本人様の意向に沿ったケアプランを作成している。	毎月モニタリングを実施しており、介護計画は1年ごと、もしくは心身状況等に変化があれば見直している。利用者や家族の意向等は事前に聴き取っている。医療従事者には来所時に提案等を聴き取っている。利用者ごとに半年に1度カンファレンスを開催し職員とも情報共有を図り、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別記録を実施し、きづきに反映できるよう情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度本人様のニーズに合わせ対応できるように家族様と連絡を取り合っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの公園に散歩に出かけたり回覧板を届けに行ったり等地域に参加する機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や訪問看護等と連携を取り、緊急時適切な指示を仰いでいる。	往診があるメリットにより、全利用者がかかりつけ医(内科)を協力医に変更している。往診は、協力医が週1回、精神科が月2回、歯科と訪問看護が月4回ある。他科の通院には家族が同行している。車いすが必要な利用者は、管理者が家族と一緒に同行している。受診結果は何か変化があったときに限り、家族との面会時や電話(急を要する場合)にて報告している。職員間では連絡帳や口頭にて情報の共有を行っている。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	日々の情報や気づきを訪問看護師に伝え、適切な判断を受け支援している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、ケースワーカー様と連絡を取り情報を把握するよう努めている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化する前に家族様と話し合い、方針の共有に努めている。	利用開始時に重度化や看取りの指針について書面で説明を行っている。重度化した場合は、改めて意思確認等を行っている。看取りにあたり、家族の意向等、ケアのあり方については職員と情報共有を図っている。また、家族が事業所内で宿泊できるように、簡易ベッドを貸し出している。医療従事者とは24時間365日連携を図ることができる。本年度も1名を看取ってる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護や主治医に研修をしていただいている。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。	BCPを活用し、災害訓練等を行っている。夜間想定を含め年2回の避難訓練を実施している。緊急連絡網等は1階事務所に掲示し職員に周知している。地域住民及び運営推進会議にて災害時の協力体制について話合っているが記録が残っていない。3日分の食料品と水、防寒シートやガスボンベ・ガスコンロの備蓄があり、日頃から湯船には水を貯める等、災害に備えている。	災害対策について、地域住民と話し合いの場を持っているが、記録が残っておらず、どのような協力体制等があるのか詳細を明確にすることや議事録に記録することが望ましい。

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人のプライバシーを尊重し、尊厳が保たれる暮らしを基本に支援している。	毎年研修を行い、職員は感想等を研修記録に記入し、管理者はその理解度を確認している。不適切な言動があった際は管理者を含め、職員間でも注意ができる環境である。管理者は職員が命令口調や上から目線での発言とならないように常日頃より指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話から利用者様の思い、希望等を読み取り、本人が遠慮なく自分の思いを伝えることができるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合ったケアを行えるよう職員全員で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の意思を取り入れるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人に合ったお手伝いをしていた だき、食事を笑顔で召し上がっていただいています。	業者により献立は決まっており、クックチル方式の食事を提供している。利用者の希望があれば差し替えることも可能である。畑で収穫した季節の野菜を楽しんだり、毎月1回は利用者の要望もふまえた行事食を提供している。その他、テイクアウトや仕出し弁当、家族の協力を得た外食等、食事が楽しみとなるように取り組んでいる。昼食夕食は決まった時間に提供しているが、朝食は利用者の起床するタイミング等に合わせて提供している。	

41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量に気を配り確認を行い習慣にしていだけるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの清潔保持の為見守り介助にて口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	歩行困難な方でも二人介助にて無理の無い範囲でトイレでの排泄を援助し自立支援に取り組んでいる。	トイレで排泄が維持できるように取り組んでいる。排泄表や、利用者の表情・仕草を確認しながら、一人ひとりのタイミングでトイレ誘導等を行っている。夜間帯ではポータブルトイレの利用や尿取りパッドの交換、トイレ誘導等を実施している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との連携を図り薬だけに頼らず腹部マッサージや個々に合った飲み物等の提供を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様の希望に応じて午前、午後等の時間希望に配慮している。また前日入浴されていても入浴を希望されればできる限り要望に沿えるよう支援している。	基本的な入浴時間は午前中であるが午後からの入浴も可能である。少なくとも週2回は入浴ができるように支援している。石鹸やシャンプー等は備え付けているが、持ち込むことも可能である。入浴を拒否する利用者がいた場合は、声のかけ方を変えたり、時間や曜日を変更している。また、入浴剤を使用する等の工夫も行い、利用者に応じた入浴の支援を行っている。	

46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している	一人一人の状況に応じてその都 度安心していただけるよう支援 している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や要領につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る	薬局の薬情により職員間で情 報を共有し症状の変化等見落と さないよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている	都度一人一人の状況を把握し、 支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける よう支援している	本人様の希望を聞きながら支 援している。	気候の良い日は少なくとも月1 回は近隣を散歩できるように支 援している。買い物や出かけたい 場所があれば家族の協力を得て、 外出ができるように取り組んで いる。いたすけ公園に花見へ出 かけたり、大山公園で抹茶を飲 んだり、鯉のエサやりをする等 の外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	利用者様の希望や力に応じて使 っていただけるよう支援してい る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りが できるように支援している	電話は本人様にかわり、話して いただく。手紙は希望があれば 支援を行っています。		

52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その都度本人様の意見を聞き本人様本意の支援を行っている。	台所はダイニングと一体感のあるアイランドキッチンであり、調理風景を眺めたり、調理音や匂いを容易に感じることができる。共用空間は毎日職員が清掃を行い環境整備している。季節感が持てるように毎月壁画を利用者と一緒に作成し、飾っている。食堂の座席は決まっているが、利用者の関係性に応じて変更することもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様の意思を尊重し、都度思いに沿えるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様、家族様の意見を配慮し、本人様が利用しやすい家具等の配置をしている。	居室内のベッド・照明・エアコン・カーテンは備え付けである。カーテンは好みの柄等（防災仕様に限る）を持ち込むことが可能である。寝具は持ち込みとなっている。持ち込まれた家具等は利用者と家族に相談しながら配置している。空調管理や室内清掃は職員が行い、居心地が良くなるように環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内にて安全を第一に一人一人が自立した生活が送れるよう支援している。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
		○	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が
			②家族の3分の2くらいが
			③家族の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 令和8年4月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2770107411		
法人名	株式会社いーくおる		
事業所名	グループホーム和の家		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	堺市北区東上野芝町2丁287		
自己評価作成日	令和8年2月25日	評価結果市町村受理日	令和8年4月24日

【事業所基本情報】

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanji=true&JigyosyoCd=2770107411-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市岡山町499番地の1
訪問調査日	令和8年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○一人一人の自立を促し毎日少しでも楽しく過ごしていただけるよう支援しています。 ○施設と地域の方々との交流を深める為、施設では行事として地域の方に来て頂くように月に1回なごみ喫茶を開催させていただいています。 ○自治会の行事やボランティア活動にも積極的に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者一人一人の意思を尊重する。安心して生活できるよう心がける。」の理念を全体会議等においてミーティングにおいて共有しています。地域の方々との交流も大切にしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度の「なごみ喫茶」や敷地内畑等で交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の回覧板にて毎月「なごみ新聞」として配信し、イベント開催の日時と内容を記載させていただいています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様、地域の方、地域包括様、薬剤師様が参加して下さり報告、意見交換を行い参考にさせていただいたり実践したりしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組を積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括や自治会長に「なごみ新聞」を配布し、施設のサービスの取組を理解していただいています。		

6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を年3回開催しており職員の施設内研修も実施することで身体拘束が理解できるよう努めています。		
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行い、職員間での虐待について理解を深め、常に注意を払い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者より説明を行い十分理解していただいた上、契約を結んでいます。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、家族様とは常に信頼関係を築けるよう努力し、意見の収集に繋がっています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	ミーティングや施設内会議等で意見を聞く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の契約更新時を利用して行われています。		

13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意見を尊重している。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月に1度の北区グループホーム会議に参加することで意見交換、交流をしています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	カンファレンスを行い信頼関係を築いています。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様からも情報をいただき、カンファレンスにて信頼関係を築いています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族様の意見を確認し対応するよう努めています。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意思を確認しながら自身でできることは見守り、出来ないことは支える関係が築けています。		

19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援させていただいています。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある場所や友人に会えるよう支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が率先して利用者様同士の良好な交流関係になる為のお手伝いをさせていただいています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対処された利用者様の家族様からの現状の相談や連絡にも対応し支援を行っています。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さまの希望や意見は前もって聞いていても変わっていくことが多くあるためその時の利用者様の意向を確認しながら本人本位で支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	ケアプラン作成時に過去の生活習慣などを踏まえた上でプランニングを行い献上に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルや日々の状態の変化を確認し注意しながら職員で共有している。		

26	#	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様との連絡を密にとり、職員間でも細かな意見やアイデアを出し合い、本人の意向に沿った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個別記録を実施し、活かせるよう情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ニーズに合わせてすぐに対応できるよう密に連絡を取り合い対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの古墳や公園に行くなどし、情報の共有を行っている。		
30	#	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師とは密接な関係を築き適切で迅速な医療が受けれるよう支援しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	週に1度の訪問日以外にも本門看護師との連携を図り適切な看護が受けられるよう支援しています。		

32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時も担当医や看護師より情報を把握するよう努めています。		
33	#	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前より家族様や関係者様と話し合いの場を持ち、方針の共有に努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師や主治医より研修を行っていただいている。		
35	#	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	#	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重やプライバシー保護など威厳のある暮らしを基本とし、日々の支援に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや希望等は普段の会話から読み取り遠慮のない本人の思いを表出できるよう働きかけている。		

38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人に合った過ごされ方やケアが出来るよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の意見を取り入れることを1番に考慮しています。		
40	#	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った食事前後のお手伝いをさせていただくことにより存在感を感じていただき日々の食事の時間にも楽しみを持っていただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の水分量や食事量の記録を行うことで体調に注意し、特に水分量をこまめにチェックし、一定量に達するよう支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診の歯科医師に助言をいただきながら個々にあったケアを行っています。		
43	#	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りトイレでの排泄を援助し自立支援に取り組んでいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と連携を図りながら薬だけに頼らず腹部マッサージやヨーグルトの提供を試みながら対応しています。		

45	#	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来る限り本人の希望に合わせた入浴を心掛け、前日入浴されていても「今日入りたい」との希望があればかなえられるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の状況に応じて都度安心していただけるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局さんの薬情にて職員間の情報共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	都度状況を把握しながら支援させていただいています。		
49	#	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の意向を聞きながら支援に努めています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人にお希望や理解度に応じて使っていただけるよう支援を行っています。		

51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は本人に渡し、お話しいただき、手紙は希望があれば支援しています。		
52	#	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時々状況に応じた対応が出来るよう心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様の意思を確認しながらその時々に対応しています。		
54	#	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や家族様の意見を1番に考慮し、本人様が利用しやすいようレイアウトしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力を生かし安全に自立した生活が送れるよう支援しています。		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある	○	①毎日ある
			②数日に1回ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
		○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、 求めていることをよく聞いており信頼関係がで きている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くない
66	職員は生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族が
		○	②家族の3分の2くらいが
			③家族の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない